

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第52号

(題字は支部長)
令和4年1月31日
発行者
内田 眞 弘

関わり合ってこそ

心豊かな日々

副支部長 吉岡 正己

はじめに、北部教育事務所長栗原孝子様は大里地方教育推進協議会のご指導をお願いしたところ、残念ながら中止となりましたが、本号のためにご寄稿いただきましたこと、本会としてここに深謝いたします。

さて、コロナ禍を受けこの二年間、私たちの活動の多くが中止となりました。社会的にはリモートで取り組む方向が広がっております。かつての職場、学校においても子どもたち一人一人にタブレットが渡され、それを活用して自宅と学校を結んで学習するということ、これまで考えられなかった学習形態が表



れております。

一方、私たちの集まりはむしろ顔を合わせ、目を合わせ談笑することこそ価値があると言えます。しかし、感染予防の観点から一堂に会する行事の実施が困難になりました。私は深谷班の活動においてもどのようにして会員同士の関係性を保つか、会への意識を高める交流や効果的な活動はないかと腐心しておりました。

そんな矢先、内田支部長さんから大里支部として「近況報告集」の作成が提案されました。私はこの取組は、一堂に会せなくなった私たちの会への意識を高めるには最適な取組と納得。

実際、九月半ばから会員への働きかけが行われ、一ヶ月後には原稿提出が支部全体で八割前後(熊谷は九割超)の皆さんから寄せられていたとの報告がありました。私の予想をはるかに超えていました。これは、皆さんが互いの関わり合いを求めているという姿の現れであり私は思わず頷いていまし

た。嬉しい結果です。つまり、会員の心の中に本会がしっかりと根付いている証ではないでしょうか。コロナによって教えられたこと、それは「人は人と関わり合ってこそ人として心豊かな生活ができる。さらに、人は関わり合いを求めている」ということです。私たちの会を身近な存在にするか離れたものにするかは、自身の意識に他なりません。とにかく原稿提出に見られたような参加意識を今後も持ち続けたいものです。

大里地方教育推進協議会を想う

北部教育事務所長 栗原 孝子



この約二年間、社会全体がコロナ禍の未曾有の状況に

あります。埼玉県退職校長会大里支部におかれましても、各種会議や研修会等が中止や縮小開催となり、その時々状況に応じて最善の方法を模索し、企画運営なってきた役員の皆様にご敬意を表します。大里地方教育推進協議会への出席に代えて、紙面にて失礼いたします。

急激に変化する時代の中で、

「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが求められています。これは、子供たちの知・徳・体を一体的に育む「日本型学校教育」を発展させていくものです。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、昨年三月から学校が全国一斉に臨時休業となったことで、「学習機会と学力を保障」「全人的な発達・成長を保障」だけでなく、「身体的・精神的な健康の保障」という福祉的な面からも学校の役割が再認識されました。

令和の日本型学校教育の構築を目指して学校経営をしていく私たちは、これまで日本型学校教育を築いてこられた諸先輩方から、情報や知恵をいただき、校長としての力量を高めていくことが大切であると改めて思っています。

今年度、県では、ICT教育の推進、学校における働き方改革、教職員の不祥事根絶を喫緊の課題として、様々な施策や取

埼玉県教職員 MOTTO

未来を創る、こどもたち。
未来を育てる、わたしたち。
～未来への責任～

組を進めています。また、「埼玉県教職員MOTTO」を作成し、自らの仕事に対する使命や誇り、また、やりがいや喜びを再認識するきっかけとなるよう活用しています。教育に携わる職の使命や誇りについても、諸先輩方と語り合

随想



近況報告

熊谷東 大島 徹

熊谷市立大里中学校で退職し、三年が経ちました。在職中は皆様から温かいご指導ご厚情を賜りお陰様を持ちまして職務を全うすることができました。心から感謝し厚く御礼申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により学校も休業となったり様々な対応が必要な状況となっています。現職の校長先生方には改めてエールを送りたいと思います。

退職後の一年目は北部教育事務所の新生徒指導支援員、昨年は拠点校指導教員として三尻中学校と江南北小学校、今年は別府中学校と奈良中学校と妻沼東中学校で勤務

いながら、自分を豊かにし、学校経営を充実させていきたいと考えています。

大里地方教育推進協議会は、その場であり、来年こそは開催できることを切望しております。

させていたいております。

これまでに諸先輩方から教えていただいたことや自分の経験などから初任者研修の資料づくりをして、伝えていくことが今の私にとって新たな学びとなっておりま

す。そして、何をどのように伝えることができるれば初任者が自ら学び、育ち、有意義な教員生活を送れるのかを求めていきたいと思

思出

熊谷中 松本 文利

退職して数年、県教委で県民相談の職に就いていた。日々多くの相談が寄せられる。多くは保護者からの学校（校長、教頭、教職員）に対する苦情である。中には市教委、県教委に対する苦情もある。先生方も現職の頃、多くの苦情を受けて解決に苦慮された経験があることと思う。相談を受けていて最も多かった相談は高等学校の生徒指導の相談である。中でも

整容指導についてである。現在、新聞等でも取り上げられているが「なぜ地毛証明を出すのか。なぜ二ブロックはいけないのか。」等である。高校の先生方は何と多くの労力を生徒指導に費やしていることだろう。

生徒から直接相談があった時には先生と話し合うことを勧めたが、一方的な指導で、話を聞いて貰えないとの回答を得る。さて、最後に勤務した学校の学校教育目標を「自立、協働、貢献」とした。自ら考え判断して行動できること、仲間と協働し納得を見つけていることができること、他の人の喜びを自分の喜びとできることを目指したからである。ある日、一

人の男子生徒が校長室を訪れ「校長先生、なぜ茶髪はいけないのですか。」という質問を受けた。私はその生徒に「君はどう考えているか。」をじっくりと聞き自分の考えを伝え、クラスで話し合うことを勧めた。そして、担任を呼び、学級会で話し合つて貰えるよう依頼した。その後、担任から話し合いの結果を受けたが、今までの中で一番盛り上がった学級会であったということである。考えさせること、話し合うことの大切さを再確認した思出である。

ALLY(アライ)になろう!!

熊谷西 須藤 一郎

- こんなことありませんか!!
- A 「Cさん、恋人できたって」
- B 「そうなの、彼氏って?」
- B の問いかけに、何か感じませんか?

- (ア)特に違和感はありません
- (イ)いきなり彼氏のこと聞くのは失礼だと思っ
- (ウ)「恋人は彼氏」て決めつけていいの?

私は、アの「特に違和感はありません」でした。しかし、恋愛対象は異性とは限らない。女性の恋人は「彼氏」、男性の恋人は「彼

女」と想定されているが、異性を好きになる人だけでなく、同性（L・G）や両性を好きになる人（B）もいる。あるいは、女性も男性も好きになる人（T）、男性にも女性にも恋愛感情がない人（Q）もいる。

最近、性的少数者（LGBTQ）に対する関心が高まっている。そして、人権推進課でも「性的少数者の人権」が大きな課題である。県内では、いくつかの自治体で同性カップルに婚姻に準ずる関係性を認める「パートナーシップ制度」を設けている。

私たちはLGBTQの方々が生きやすい社会を創るために、その方々を理解し、支援したいと思う人（ALLY（アライ）と言う）を重要な存在だと考える。



「カサブランカ」

また、自分の性のあり方を伝える「カミングアウト」は、信頼の証、ぜひ、肯定的に受け止めたい。一方で、その人の性のあり方を本人の同意なしに誰かに暴露してしまう「アウトティング」は、時に命の危険に繋がる。アウトティングは、本人に確認することが大切である。多様な性のあり方を尊重することは誰もが大切にされる人権尊重社会の実現につながる。

「がん教育」に携わって

熊谷南 井出 徹

「要再検査・PSA値16.9」
四年前、久しぶりに受けたPSA検査は基準値の四倍という高い値であった。

このようなときに、勤務校で『生命（いのち）の授業』が開催され、ピンクリボンの会の栗原代表に自分の病気をカミングアウトした。家族や主治医、ピンクリボンの会の方々に背中を押され、行田総合病院での治療が始まった。

「眠くなりますよ。」と言われて気づいた時には、下腹部の重さで手術が終わったことを実感した。ロボット手術であったため回復も早く、二日後には歩けるようになっていた。お見舞いに来ていた

だいた栗原さんからは、私の元気な姿に笑顔で「うちの会で先生の体験談を話して下さい。」と『生命の授業』にスカウトされた。

退職して時間がとれることもあり、熊谷市内の学校や行田市の小学校、嵐山町の中学校と『生命の授業』の講師・スタッフとして、「いのちの大切さ」を伝えることが続いている。学校に行くと感じるのは、校長先生をはじめとした学校経営の充実である。子供たちを通して、校長先生の指導の素晴らしさがよくわかった。これも、先輩の先生方がそれぞれの学校の伝統を重んじながら、学校の良さを磨き上げた成果だと感じる。改めて「校長先生のリーダーシップ」を感じる事ができた。

子供たちの感想を見ると、私が話したことをしっかりと心に受け止め、子どもたちが考えて行動する姿勢がうかがえた。与えられた命をさらに大切にしていきたいと感じる今日である。

六十の手習い

熊谷北 柏瀬 健一

令和三年十月一日、コロナ禍の中で、第四回目の緊急事態宣言が全面的に解除され、私たちの生活も

不安を抱える中、徐々に潤いが戻ってきたように思う。

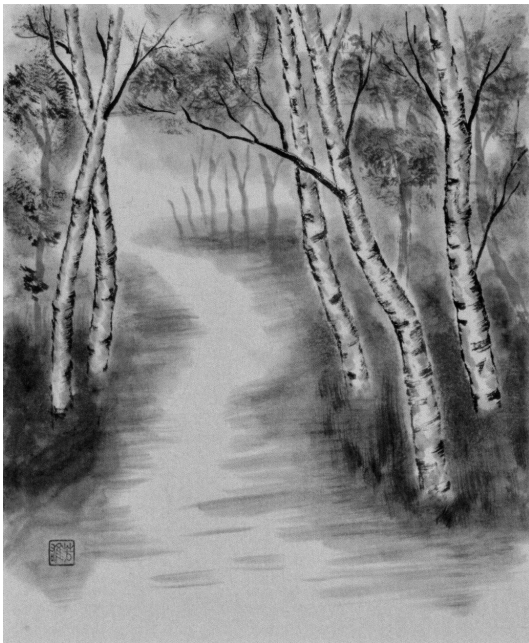
昨年度は、四月からの授業も学校閉鎖や休校等で大変な状況だった。私が勤務する大学でもオンラインによる授業となり、実技や実験等がともなう授業は当面の間、休講となり、後期の状況において検討することになった。私が四月から担当する科目、講座が六科目二講座あり、授業開始までの数週間で全てオンライン授業の資料づくりを心を痛めたことが今でも思い出される。大学からオンライン授業の方法等が毎日メールで舞い込んで来、その内容は、ほぼ初めて聞く横文字の名前であった。「オンデマンド型授業」「リアルタイム型授業」「マナバ型授業」「ズーム型授業」等……。唯一これまで耳にした言葉は「ライブ」「パワーポイント」だけで、心の中では、「六十二歳になって何でこんなことをやらなくてはならないのか」等の諦めの風が嵐のように駆け抜けていく日々。なんとか大学からの「資料づくりマニユアル」等を必死に覚え、私の思う資料をつくりあげた。しかし、画像や音声を入れ過ぎたため、大学が指定した一回の授業の容量をはるかに超えてしまい、何度もつくり

替えた苦い想いがある。その後、六十の手習いで身に付けた技法を活かし、資料づくりもスムーズに展開した。今年は、対面授業が中心となったが、これまでのオンライン授業の資料を対面授業方式に工夫・改善して、学生が「社会に出てからも大学で学んだことが生かせるよう」三つの力をバランスよく育てる指導に役立てたい。

我が幼稚園奮闘記

深谷中 栗田 敦

「わー楽しいよ」今日も喜び溢れる子供たちの声、ここは楽園です。ここには、虫取り・段ボール滑り・追いかっこ・ランニング



「白樺の径」

コース等で遊べる築山があります。健康な体作り、友と語り合い、知恵を出し合い様々な遊びを創造し楽しむ素敵な山です。今、この頂上からは遠く赤城山・榛名山が望め心地よい秋風が流れています。まるで草原にいるような癒しの空間でもあります。更に、中央にある楠の木が子供たちの豊かな成長をどっしりと見守ってくれる慈しみの場です。私は今年からお世話になり、この築山が大好きです。けれど、この築山と園庭も夏までは、雑草がぐんぐん生えてくる戦場でした。刈払機で毎週一時間ぐらいずつでも刈らないと、山に踏み込めなくなる勢いだからです。ここでの初体験は、刈払機の歯の形状からか右から振って刈ると、左から振って刈るのでは切れ方が違うのを知ったことです。背の高い草を切っているには左から右に振るとローターに草が絡みつかないことに気づきました。逆に、背の低い草を刈っていくには、左から右に振りながら進めると、きれいに早く刈

り込めることが分かりました。さらに、絡まないようにするために、エンジン回転数を草丈や草の硬さに応じて調整することも分かりました。いずれも夏の暑さの中でのマスク着用、作業の危険（斜面作業で滑って転びそうな時もありました。刈払機が当たれば大変なことになるので十分に気をつけています。）刈り込んだ後の大量の草集めまで、わずかな時間で悪戦苦闘の日々でした。

しかし、この築山は子供たちが楽しみ夢を広げる大事な遊び場と思ひ、気合を入れ頑張っています。

今ごぼうは…

深谷中 斉藤 実

退職して二年目を迎えました。おかげさまで、昨年度は深谷幼稚園で、そして本年度は開園したばかりの深谷東幼稚園で園長としてお世話になっています。三歳児から五歳児まで各学年二学級編成で、通園区域も広く園児数が百十一名を数える、県内の国公立幼稚園のなかでも規模の大きい幼稚園です。開園から半年余りが経ち、ようやく落ち着いてきたところですが、まだまだやるべきことがたくさんあり、常に頭をフル回転させています。このような私を時に癒し、「さあ、がんばるぞ」とやる気を喚起してくれるのが子供の笑顔と元気です。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、マスクをはずせない生活が続くなかでも変わらずに、園庭を駆け巡り、砂まみれになり、友達と思いを交わしながら夢中になって遊んでいる子供がいます。捕まえた虫を自慢気に見せたり、鉄棒の逆上がりができるように何度も挑戦したりする子供もいます。全力で遊び浸る一人一人の姿を見るたびに、昔と変わらぬ子供の姿（本質）を感じ、明日への活力をもらっています。とりわけ感心したことは、子供の『やってみたい』という好奇心の強さです。「先生、○○を作ろうよ」「みんなで○○をしてみようよ」…やる気に満ちた笑顔も、元気いっぱい自分を表現する姿も最高です。

定年退職を迎えたとき「のんびりゆったり生活できたら」と思っていました。改めて子供に関わる仕事の大切さと楽しさを実感しています。歴史探訪や畑仕事など自分の『やってみたい』はほとんどにして、子供の笑顔と元気を見るために今しばらく幼稚園の仕事を満喫したいと思ひます。

神社再建に光を、そして、 渋沢翁の生き方を広め メンタルコーチとして燃える

深谷北 五十嵐 勝美

定年退職して、東京渋谷にある國學院大学へ編入学して、神職の資格を取得し、群馬県の神社に奉職し、その神社の再建に全力を尽くしております。自分は素晴らしい郷土古里そして日本に生まれたんだと、自分は先人達の思いを受け継いで生きていんだという認識を持つことで自分が好きになる自己肯定感・誇りが持てると思います。その中核を成す神道を勉強しています。全国の地方寺院が消滅しつつあり、神社が荒れてきているのは、国家の死生観を揺るがす

重大な問題です。人知を超えた存在・概念へのリスベクト（尊敬）が消えた社会は、危険です。国家存亡の危機すらあります。

渋沢栄一翁を主人公とするNHKの大河ドラマ「青天を衝け」が始まりました。尾高惇忠のやる気を出す教育、渋沢財閥をつくらずに人を富ませる方法、多くの会社を創った中で人材の育て方・人材登用の妙、多くの人に尊敬され対立しない方法、多くの困難を人との出会いで切り抜けていった人たちのの妙等：多くの学びのドラマです。Zoomを使って全国の渋沢ファンのため講演活動を行っています。

また、群馬銀行野球部のメンタルコーチとして、SBT（スーパーブレイントレーニング）の理



「月夜梟」

論を実践的に指導しております。大谷翔平選手や女子バスケットのナショナルチーム（オリンピック銀メダル）を指導した師匠に学んだ理論です。その夢づくりの理論を全国の先生、経営者などに伝えています。私の夢は、群馬銀行バレー部とBリーグの群馬サンダースのメンタルコーチになることです。

コロナ禍を越えた新たな社会に光を与える活動に今燃えています。

大震災十年目に

寄居 鳥塚 富弥

今年度前期のNHK朝ドラマは「おかえりモネ」だった。東日本大震災から十年目の年、震災による心の傷の一つのテーマにしたものだった。十年前の三月十一日のことは、今でもよく覚えている。当時まだ勤務していた学校で、激しい揺れにおそわれ、子どもたちの避難、下校、被害状況確認など追われる中、テレビ画面に映されたものは大津波、火災、原発事故など壮絶な内容だった。

宮古市田老地区に、「たろう観光ホテル」があった。私は震災半年前の八月末に、東北旅行の途中ここに宿泊した。田老は過去の津

波で有名な場所だった。江戸時代、明治二十九年、昭和八年と何度も津波に襲われ、その都度村は壊滅的な被害を受けた。そこで津波に負けぬしつかりした防潮堤を作った。全長2km以上、海面からの高さ10mの防潮堤である。朝起きて港の近くに高く突き出た山王岩までの散歩の帰り、この防潮堤に上りしばし歩いた。あまりの巨大大さに素直に驚いた。まさに万里の長城。国内外の研究者たちからも注目されていた堤だった。しかし東日本大震災の津波はこの防潮堤を軽く越え大きな被害を出した。たろう観光ホテルも四階まで浸水し、二階までは柱を残して流出したホテルは津波遺構として保存されることになった。私が宿泊した部屋はこのあたりと報道写真を見るたびに思い、同時に地震が半年前だったらと恐怖も感じた。

人生には上り坂下り坂だけでなくまさかもある。まさかと思った災害の記憶も時間の経過とともに薄くなる。災害はいつ起こるかかわからない。そのため備えは常に心していかなければならないと考えるこの頃である。



同好会だより



写真同好会

会長 岡部 弘行

ここ何年かは会員十名ほどで、例会を年四回程度開催するほか日帰りの撮影旅行も行っています。

しばらく新入会員がいないので入会者大歓迎です。

十五年前スタートした頃はまだフィルムカメラが主流でしたので思えば隔世の感です。写真にパソコンとプリンターがカメラと同じ必需品になった昨今は同好会でも画像処理のノウハウが例会の話題の中心になることは珍しくありません。持ち寄る写真も何らかの加工が施されたものが多くなり、絵と写真の境界がぼやけてきましたがこの傾向は益々拡大すると思っ

囲碁同好会

会長 深田 忠雄

十一月六日 秋季大会成績

優勝 林 健次

準優勝 来間平八

コロナ禍のため、練習を重ねる毎月第一・三土曜日（箱田ふれあいセンター）の月例会も、五月（くまびあ）の春季大会も開催中止になり、誠に残念！

プロの方では、最近周囲から「仙人」と呼び始められた井山裕太（32）が、「令和三羽ガラス」の有力遼（24）、芝野虎丸（21）、許家元（23）等を相手に、棋聖戦九連覇、本因坊戦十連覇、碁聖戦奮取、名人戦二連覇、王座戦一勝と破竹の勢いで活躍している。

一方、「忙中閑哉楽」アマの私達は、負けては、相手の努力をたたえ、勝つては、自分の幸運を喜びたいものである。

絵画同好会

会長 風間 勲

水墨画・絵画同好会作品展に想う
”各同好会発足十六年に寄せて“

大里退職校長会における各同好会は、平成十七年に発足した。絵画同好会初期には、水墨画は絵画

同好会に所属し、後に独立して現在に至っている。これまで活動内容は異にしてきたが絵画同好会作品展は、十六年間共に開催してきた。

節目の第十五回展は、コロナ禍で中止となり残念の極みであった。第十六回展は、開催の運びとなり水を得る喜びとなった。

本年度の「水墨画・絵画同好会作品展」はより清く・強く・美しくをテーマのもと実施される。これは、清らかで美しい作品、美しい中に力強く逞ましい作品を目指すものとした。

今後も全会員の皆様の期待に沿うべく一層の努力を重ねていく覚悟である。乞う！御高覧を。

水墨画同好会

小林 芳雄

学習日第二・三土曜日 深谷市公民館

黒と白の織りなす変化に驚きと感動に惹かれ無心に作品に取り組んでまいりましたが新型コロナウイルス蔓延のため学習会は中止、各自練習を続けています。

絵画同好会と合同で十二月三日より五日まで熊谷市立文化センターにて展示会を行いました。

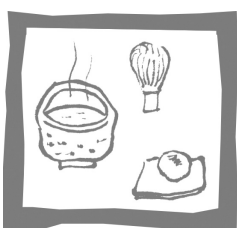
茶道同好会

さよつなら 茶道同好会

会長 吉田 寿美子

令和三年一月四日の新釜。梶並圭舟先生の平点前の一挙一動を厳粛に受け止めながら、新たな気持ちでスタートしました。しかし、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が間もなく発令され、二月、三月と休みになってしまいました。四、五、七月こそはと再会を期したのですが、諸般の事情で再開することができませんでした。已む無く茶道同好会を十三年間で閉会することになりました。

梶並先生には貴重な茶道具はもちろんのこと四季折々の和菓子、床の間の掛軸、花等用意して下さり、茶道の所作に相互尊重の精神が宿っていることを学びました。皆さんと会う毎、豊富な話題に包まれ楽しかったです。最後にご支援頂きましたことに感謝いたします。



地区だより

愛民愛郷の大福御前

寄居 鴻野 年伸

寄居町鉢形に小田原後北條氏が北関東支配における最大拠点とした武州鉢形城跡がある。戦国時代末期の同城は北條氏邦を城主とし、その内室は寄居町末野の花園城主第十五代藤田康邦と西福御前の息女大福御前である。この鉢形城が落城に至る経緯は御存知豊臣秀吉の小田原攻めに端を発する。

寄居町藤田の高根山藤源院正龍禪寺の山門をくぐり、坂道とおよそ四十段の階段を上った南側に面した眺望のよい墓所に北條氏邦と大福御前そして藤田康邦と西福御前の御廟はある。小田原攻めの戦禍により囚われの身となった夫氏邦の志を胸に大福御前は落城の後、故郷の地で薙髪し、多くの兵士や鉢形城の断崖から身を投じた女性や家来たちの供養を行い満願の日に正龍禪寺付近で落命している。落城に際し大福御前は、前田

利家を総大将とする豊臣秀吉軍の鉢形城攻めを担当した上杉景勝勢の先鋒隊長であった実弟藤田信吉をして愛民愛郷の心を以て景勝に願ひ出さしめ多くの家来や人々の命を救う事に尽力したといわれている。諸説ある中ではあるが将に人々を愛し郷土を愛した心優しき女性であったという為人が忍ばれる。

正龍禪寺第二十八世住職高倉隆綱氏は語る。戦禍の中で氏邦に対して大福御前の望む和睦開城を進言したのが、史実としては当山五世の繁室良栄大和尚とされているが、実は四世天叟長得大和尚であったのではないかという研究者からの新たな声も届けられていて大変興味深いと。



北條氏邦の墓と大福御前の墓

※人名の読み方は諸説あります。

第二十回秋季親睦ゴルフ大会

令和三年十一月十七日(水)、

上里ゴルフ場は雲ひとつない晴天に恵まれました。参加者は十八名。春季大会が新型コロナウィルスの感染拡大により中止となったため、一年ぶりの開催となりました。

内田支部長から、本大会が事業再開の第一歩であるとの激励の言葉をいただき、数々の珍プレー好プレーを展開しながら楽しい一日を過ごすことができました。

大会の結果は、次のとおりです。

- ・優 勝 沼尻 慎一
- ・準優勝 島崎 一雄
- ・第三位 加藤 彰
- ・ベストグロ 中村 充志

(文責 小林晃二)

水墨画説明

掲載された作品三点は、水墨画同好会 小林芳雄先生の作品です。三頁「カサブランカ」は全国公募第一回日美展に出品されたものです。四頁「白樺の径」と五頁「月夜梟」は令和三年第四回日美展に出品されました。そして、「白樺の径」は入選特別賞を受賞されました。

事務局だより

幹事 鶴岡 信好

○大里地方教育推進協議会

例年通りの協議会を実施するべく、大里地方校長会と打ち合わせを行い、準備をして参りましたが、八月に入ってからからのコロナ感染者の激増により、集つての会は中止し、熊谷市立桜木小学校校長堀川大輔先生に紙上発表していただきました。今年は、会員全員分の発表資料を用意していただき、月中にはお配りし、今の学校の様子を知ることができました。

○近況報告集「架け橋」

会員の皆様のご協力により、会報五十二号と同時に発行することができました。是非お読みいただき、旧交を温めていただければ幸いです。

訃報 令和三年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
清水 信二	85	6・5	熊谷西
塚越 嘉明	84	9・29	熊谷西
瀬下 裕仁	88	10・3	深谷中
島田 晴男	84	12・28	熊谷中

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



俳句

雪うさぎ

熊谷中 小林 明

余部に残せしレール冬茜

人も去り雪の刈り株棚田かな

教へ子の十七回忌や初あられ

宝船真帆に追ひ風吉夢かな

校門に児童迎へる雪うさぎ

ふたりの師を偲んで

熊谷南 原口 一明

新緑の光の流れ師の教え

あけびの実色の深さを説く姿

コスモスをゆらして走る師の勇姿

プールにて泳ぐ楽しさ熱き声

杜の声

熊谷北 島田 道郎

庚申を囲むミズヒキ花穂の伸び

野を越へて森をくぐって秋の風

道端に尖り顔出す彼岸花

雨上り森を歩けば藪蚊攻め

鷺一羽夕焼の空渡り行く

短歌

氷結の沼

熊谷西 新井 俊一

結氷の沼の周りをバリバリと

音たて駆ける孫は丑年

(令和三年度 三ヶ島葎子賞受賞)

都会に住む孫はバケツで稲作り

ご飯を炊いて食べると息巻く

少年はマウンドに立つすつくりと

あの孤高のマウンドに

八十路

深谷中 真下 義明

八十路来てしみじみ思うわが里の

自然が我を育てしことを

野菜積む車の繁き我が家前

「出荷街道」と我は名づける

コロナ禍にて会うこと少なき

里の人マスクをかけて共に草刈る

あの日あの時

寄居 町田 たか子

統合の新校舎へと生徒らは

机を持ちて行列なしき

舞台から作詞作曲お二人に

導き給ふ校歌のお広め

喜々として昔の道具の体験す

蕎麦蒔き食ぶるまでの手仕事

編集後記

おかげさまをもちまして、ここに会報「おゝさと」第五十二号をお届けすることができました。心温まる玉稿並びに貴重な作品をお寄せいただきました皆様には心より感謝を申し上げます。

令和三年もコロナで明け暮れた一年でしたが、少しずつ落ち着きを見せ、安堵の感を持ち始めたところ。しかし、新たなオミクロン株の出現に気が休まらない日々が続いています。そのような中で本会報が少しでも皆様の心の癒しとなれば幸いです。今後とも広報部の活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

令和3年度 裕己一明史明明敦伸
広報部 郁慎 裕一 年
島村尻林口口田田野
福松沼小瀧原飯栗鴻

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第五十二号)

発行 令和四年一月三十一日

発行者 支部長 内田 真弘

印刷所 株式会社 博文社

熊谷市本石一三三四

〇四八(五二)三〇六三